



## 欧州学術誌に研究論文を発表

### 臓器提供および移植における知識と態度・行動の関連性の有無

長野県厚生農業協同組合連合会佐久総合病院佐久医療センター（佐久市、院長：渡辺 仁）腎臓内科副部長の村上 穰が執筆した「臓器提供および移植の知識と態度、行動に関する臨床研究」が原著論文として欧州の学術誌に掲載されます。

本論文によって、臓器提供に関する正しい知識を持つことは臓器提供の意思（態度）につながるが、意思表示という行動には結びつかず、態度を行動に移すための介入が必要であると考えられることがわかりました。

#### 論文タイトル

Knowledge does not correlate with behavior toward deceased organ donation: A cross-sectional study in Japan

#### 論文著者

Murakami M, Fukuma S, Ikezoe M, Izawa S, Watanabe H, Yamaguchi H, Kitazawa A, Takahashi K, Natsukawa S, and Fukuhara S.

#### 掲載学術誌

Annals of Transplantation

本研究の意義は、1) 臓器提供の啓発に関する研究は死後の臓器提供が多い国々に偏っており、極端に提供者が少ない日本ではこのような研究がほとんど行われていなかったこと、2) 臓器提供および移植の知識を問う質問紙を日本で初めて作成し、質問項目の信頼性と妥当性を検証したこと、3) 先述の質問紙を用いて、知識は臓器提供の意思（態度）と有意に関連するが、意思表示（行動）とは関連しないことを明らかにしたこと、4) 佐久総合病院常勤職員の 64.8%（1967 名中 1275 名）が回答したこと、の 4 点があります。

腎臓内科副部長の村上 穰が筆頭著者となり、佐久総合病院統括院長 伊澤 敏、佐久医療センター院長 渡辺 仁、小海分院院長 山口 博、名誉院長 夏川 周介、佐久総合病院老人保健施設長 高橋 勝貞、腎臓内科統括部長 池添 正哉が共著者として執筆されました。

【背景】死後の臓器提供を増やすことは本邦だけでなく世界の課題でもあります。臓器移植全体の 3 分の 2 以上を占める腎移植は治療成績、QOL、医療費の 3 点においていずれも透析より優れており、健康な家族から腎臓の提供を受ける生体腎移植の件数は年々増加しています。しかし、健康な家族がない場合は透析を受けながらおよそ 13 年間もドナー（死後の臓器提供）を待ち続けなければならない、医療格差が生じています。その格差を是正するにはエビデンスに基づいた臓器移植の啓発が必要ですが、日本では臓器移植に関する研究がほとんど行われていなかったため今回の研究を実施しました。



令和元年12月23日  
長野県厚生農業協同組合連合会  
佐久総合病院

## 報道関係各位

【今後の展望・希望など】筆頭著者の村上 穰は腎移植内科医であると同時に、8年前に母親をドナーに腎移植を受けた腎移植レシピエントでもあります。一人でも多くの透析患者さんが腎移植の恩恵を受けられるよう医療者と患者の両方の立場から臓器移植の啓発や研究を続けています。

### 【報道機関からの本件に関するお問い合わせ先】

佐久総合病院 広報課 担当:新海  
月～金曜日 8時30分～17時00分

TEL 0267-82-3131 FAX 0267-82-7533